

第1回福祉とアートのシンポジウム

本年度始動した、いばらき障害者芸術文化活動支援センター準備室では、「福祉」と「アート」をキーワードに、継続的な学びの場やフラットなネットワークをつくっています。今回のシンポジウムは、県内でアートを切り口に活動を展開する3団体にスポットをあて、その哲学についてうかがいます。「福祉」と「アート」がどう時、起こる「何か」を自覚してください。

2022年2月26日(土)
14:00 - 16:30 (13:30 開場)

参加方法

3通りの方法がございますので、以下より選んでご参加ください。

① Zoom参加 | 先着100名

[質疑応答など、登壇者とのコミュニケーションが可能です]

② 会場参加 | 先着50名 | 視聴のみ

[プロジェクターで映像をご視聴いただけます]

会場：茨城県総合福祉会館 〒130-0851 水戸市千波町1918
お問い合わせ：029-244-4545

③ YouTube参加 | 視聴のみ

参加対象：どなたでも [手話の同時通訳を予定しております]
参加費：無料

※登壇者はオンライン参加となります。会場で行うシンポジウムではありません。

Googleフォームまたはメールより申し込みください。
お申し込み用、メールで参加方法の詳細をお送りいたします。

[Googleフォーム]

QRコードを読み取り、お申し込みください。
URL: <https://forms.gle/yVKZKJs4hWtBcYag8>



[メール]

件名に「第1回シンポジウム」と入力し、
氏名・連絡先・参加方法・人数を明記の上、お申し込みください。
E-mail: hello@welfareart.net

※参加方法についてのご相談は、お電話でも受け付けています。
お気軽にお問い合わせください。電話：080-6862-5402 (小堀)

お申し込み

い
ば
ら
き
で
い
ま
起
ま
り
を
し
ま
す



障害者芸術文化活動支援センターとは

厚生労働省では、障害のある人たちの芸術文化活動の振興を図るとともに、自立と社会参加の促進を目的に、自治体や民間団体と協力し、「障害者芸術文化活動普及支援事業」に取り組んでいます。障害のある人が芸術文化を享受し、多様な活動を行うことができるよう、支援拠点として「障害者芸術文化活動支援センター」を都道府県に設置し、絵画や陶芸などの美術分野、演劇や音楽、舞踊などの舞台芸術に関する多様な支援事業を展開しています。(障害者芸術文化活動支援事業ウェブサイトより)

茨城県の支援センター【準備室】では、障害があるない関わらず、表現する自由について多様な立場のみなさんと話し合い、実践する機会や仕組みを創出したいと考えています。

の場 政樹 Masaki Matoba (袋田病院/大子町)

医療法人直会理事長 袋田病院院長 精神科医



1962年生まれ。映画「カッコーの巣の上で」の舞台になったような精神科病院での衝撃的な経験から、精神科病院の脱構築がライフワーク。2000年より袋田病院勤務。農畜産業、総合医療、アート等を織り込んだ地域精神科医療を实践。安彦謙平氏の造形活動に感銘を受け、2001年より招聘。2013年より「アートフェスタ」を開催する等、精神科病院でのアートの可能性を模索中。

立川 利行 Toshiyuki Tachikawa (ユーアイファクトリー/水戸市)

社会福祉法人ユーアイ村 障がい福祉サービス事業所(生活介護)「ユーアイファクトリー」管理者



1984年茨城県西茨城郡友部町(現笠間町)生まれ。上智大学で社会福祉を学ぶ。大学卒業後は特別養護老人ホームユーアイ村にて高齢者介護の世界へ。その後、地域包括支援事業にて、認知症があっても暮らしやすい街づくりに深く関わる。現在は障害分野に移り、生活介護事業所で3年目。日々起きる楽しい(?)出来事に戸惑いながらも奮闘中。口癖は「どんどん外に出よう!」。

柳瀬 敬 Takashi Yanase (自然生クラブ/つくば市)

自然生クラブ 障がい福祉サービス事業所(生活介護)ディレクター



1958年愛媛県今治市生まれ。筑波大学で教育哲学を学ぶ。群馬県の実業私立学校、白根開善学校で自由教育を实践。1990年筑波山南麓に自然生クラブ設立。知的障がい者と共同生活しながら有機農業と表現活動に取り組む。表現の自由と共同性に着目し、たくさん知的障がい者とアート活動を行ってきた。茨城新聞社社員論説委員として評論活動も行う。現在つくば市教育委員。

発表・進行



小堀 幸子 Yukiko Kobori (準備室メンバー)

1968年水戸市生まれ。笠間市在住。東京学芸大学大学院修了。美術教科書などの編集を経て、2011年より社会福祉法人 北会館にて広報業務を行う。2016年より福祉職の人材確保・定着を目的としたプロジェクト「いばふく」に携わり、イベントや研修の企画・広報を担当。美術や音楽を用いた福祉の魅力発信を行う。2019年よりNPO法人ちのぎの学校デザイン室を兼任。

ファシリテーター



ミヤタユキ Yuki Miyata (準備室メンバー)

1985年水戸市生まれ。常陸大田市在住。RÖKURÖKURIN合同会社代表。東京藝術大学大学院修了。自宅を「六六純」と名付け、国内外アーティストの滞在、プロジェクトの拠点などとしながら、全国各地で活動している。県内の主な活動に「ISCO-水府コラボプロジェクト」、茨城県北芸術祭 KENPOKU ART 2016 など。編集・共著に、「地域アートはどこにある?」(福之内出版、2020)

オブザーバー



3県の障害者芸術文化活動支援センターよりオブザーバー参加!

- 武田 和恵 Kazue Takeda (ぎやらりー・ら・ら・ら/山形県)
- 小林 電世 Tatsuya Kobayashi (はじまりの美術館/福島県)
- 柴崎 由美子 Yumiko Shibasaki (エイブル・アート・ジャパン/宮城県)

NPO法人エイブル・アート・ジャパン

【社会の芸術化、芸術の社会化】をキーワードに活動するNPO法人。平成29年度から障害者芸術活動支援センター@宮城(愛称:SOUP)を開設、令和3年度からは同事業の南東北・北関東広域支援センターを担当。